

(様式1)

自 己 評 価 表

愛媛県立大洲高等学校
学校番号(30)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策	
教育方針		国家社会の有為な形成者としての資質を養うために知性を高め、心身ともに健康で豊かな人間性と創造力を備えた人間を育成する。 生徒の興味・関心・能力に応じた進路実現を目指し、社会の変化に主体的に対応し、社会貢献できる人材を育成する。		スクール ミッション	大洲市にある普通科と商業科の併設校として、知性を高め、豊かな人間性と創造力を兼ね備えた人間形成を目指す教育を推進します。また、仲間と切磋琢磨できる環境を通して、社会の変化に主体的に対応し、地域のリーダーとして地域に貢献できる人材を育成します。	
教育 目標	適切な目標設定	本校の実情や生徒の実態に合った教育目標を設定するとともに、全教職員の共通理解を図る。 教職員の共通理解度 A：90%以上 B：89~80% C：79~70% D：69~60% E：60%未満	A	学校評価アンケートでは、適切な目標設定であるとの評価が97%、教職員間の共通理解があるとの評価が85%であった。	本校の教育活動の成果と課題を検討するとともに、全体の意見も踏まえながら教育目標を設定する。	
	積極的な目標の周知	ホームページやPTA総会などを通じて、生徒、保護者、地域に対して、教育目標の周知を図る。 教育目標の周知 A：90%以上 B：89~80% C：79~70% D：69~60% E：60%未満	E	学校評価アンケートでは、保護者にスクール・ミッションが十分伝わっているとの評価が54%であった。	「学校運営方針」に代えて「スクールミッション」としたこともあり周知不足という点で課題が残った。引き続きホームページやPTA総会を通じて情報提供していく。	
保護者、 地域との 連携	連携の深化と積極的な情報提供	生徒の学校生活がさらに充実したものになるよう、保護者、地域との連携を深め、ホームページやPTA月報で情報発信をしていく。 ホームページ更新回数(1週間平均) A：5回以上 B：4回以上 C：3回以上 D：2回以上 E：1回	A	PTA月報を毎月発行するとともに、1月現在、ホームページの更新回数は1週間平均で5.1回であった。なお、1か月の閲覧者数は1月現在平均550人であった。	引き続きホームページやPTA月報を通じて、生徒の学校生活などをリアルタイムで情報発信をしていく。	
学習 指導	授業力改善の推進	各種研修等を通して、教科の専門的な知識・技量を高め合うとともに、ICT機器の活用について研究と実践を深め、各自の授業力を向上させる。	A	研修を通して知識・技量を高めるとともに、ICT機器の活用により、授業や課題の提示・提出等の実践を深めることができた。	校内研修や校外研修の報告などを通じて、ICT機器の活用能力の向上を図り、授業で積極的に活用する。	
		内容の精選、工夫に務め、生徒が主体的・対話的で深い学びを実践できるように、生徒の理解度が高まる授業を実践する。 生徒の授業に対する満足度 A：90%以上 B：89~80% C：79~70% D：69~60% E：60%未満	A	生徒の授業評価(12月実施)では、授業が分かりやすい、プレゼンが見やすい、ICT機器を活用するなど理解しやすいように工夫しているとの評価がいずれも90%以上であった。	研修を通じて、ICT機器の活用能力の向上を図り、授業での活用を更に進める。教科指導の強化を図り、その成果を学校の実態や学科の特色に応じた進路指導につなげる。	
	ホームルーム活動・総合的な探究の時間(良知)の充実	ホームルーム活動・総合的な探究の時間(良知)の内容を精選し、生徒が主体的・対話的で深い学びを実践できるよう、外部機関との連携を図るなど創意工夫する。	A	総合的な探究の時間においては、キタ・マネジメントや大洲市との連携を図り、フィールドワークや調べ学習を充実し、地域課題の解決に貢献しようとする態度を育成できた。県外先進校の視察を通じてその成果を共有し、授業実践に生かした。	探究活動を進めるとともに、その成果を外部で発表する機会を増やし、地域と未来の自分との関わりを意識させ、地域のリーダーとしての資質・能力を養う。	

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
進路指導	進路指導の充実	多様化する入試制度を整理・分析し、生徒との面談に活用できるような進路情報を提供する。生徒・保護者対象の進路講演会を適切な時期に実施し、最新情報を発信するとともに保護者との連携を図る。	A	各学年で外部講師を招いての進路講演会を行った。保護者にも案内し、参加を得た。難関大学希望者講演会（講師：ベネッセ）、愛媛大学の協力を得て講演会等を実施した。	進路講演会の保護者の出席率を向上させるために、広報活動に努める。
		公開講座やオープンキャンパス等の情報を提供して、大学や学問研究に対する早期の意識付けを行う。 生徒に対する適切な情報提供 A：90%以上 B：89～80% C：79～70% D：69～60% E：60%未満	A	学校評価アンケートでは、必要な情報が提供されているとの評価が93%であった。公開講座やオープンキャンパスなどの情報提供を生徒のタブレットが活用できるようTeamsに投稿し、各種申し込みのURLやQRコードが活用しやすくなるようにした。進路情報を得るのに必要な進路雑誌などはできるだけ生徒一人一人に配布した。	公開講座やオープンキャンパスなどの情報を生徒のタブレットを活用して効果的に提供する。自らが積極的に情報収集に努めようとする態度を育成する。
		国公立大学合格者80名以上を目指す。 A：80名以上 B：79～70名 C：69～60名 D：59～50名 E：50名未満 難関国立大学合格者数10名以上を目指す。 A：10名以上 B：9～6名 C：5～3名 D：2～1名 E：0名 就職内定率100%を目指す。 A：100% B：99～95% C：94～90% D：89～85% E：85%未満	B C A	3月10日現在で、現役生の国公立大学合格者が70名を超えることができた。愛媛大学医学部医学科に現役で合格者が1名出た。総合型選抜・学校推薦型選抜の合格者が45名となり、昨年度40名を上回り、過去10年さかのぼってみても最高の結果を出している。また、その45名のうち3名は商業科の生徒である。就職内定率100%を達成することができた。	国公立大学合格率を伸ばせられるようさらに進路課と学年団の連携を密にしていく。また、難関国公立大学合格者の数を増やせるように、3年生はオープン模試等を活用させ受験機会を増やしたり、個別指導で受験生個々に適切な進路指導ができるような体制づくりに努める。1、2年生は、講演会、発展講座、ハイレベル模試への積極的な参加を促し、高いモチベーションの維持を目標に学習に取り組むよう工夫する。来年度も就職内定率100%を目標にする。
		家庭学習時間は1・2年生3時間以上、3年生4時間以上を目標に、計画的に学習に取り組みさせる。 A：3時間以上（4時間以上） B：2.9～2.5時間（3.9～3.5時間） C：2.4～2.0時間（3.4～3.0時間） D：1.9～1.5時間（2.9～2.5時間） E：1.5時間未満（2.5時間未満）	B	学習時間調査の結果によると、1日あたりの学習時間が、3年生で約200分、1・2年生で約120分であった。3年生が学年が上がるごとに志望校への進路意識が高まり学習時間が上昇した。	ICTの活用による分かりやすい授業に向けた工夫や前向きな学習につながる適切な難易度の課題の出題とともに、早期から進路意識を高めて学習意欲の向上を図る。
生徒指導	生徒指導の充実	教職員の共通理解を図り、連携して指導にあたるとともに、基本的な生活習慣の確立を図り、特別指導0件を目指す。 A：0件 B：1件 C：2件 D：3件 E：4件以上	A	担任や学年主任をはじめ、教職員の日々の丁寧な指導もあり、特別指導0件を継続している。	問題を未然に防ぐための生徒指導を継続して行う。何か起きた時の指導はもちろんであるが、問題を起こさせない関わりを日々継続して行う。
	交通安全指導の充実	安全意識の高揚に努め、交通事故0を目指す。自転車通学生のヘルメット着用率100%を目指す。 A：100% B：99～98% C：97～96% D：95～94% E：94%未満	B	家族の運転する自動車乗車中に自動車同士の接触事故があった。自転車乗車中に自動車との接触事故が1件あった。ヘルメットの着用はしているがあごひもの緩い生徒を数名指導した。	自転車の右側通行や交差点の通行方法など、交通ルール、マナーが徹底できていない生徒もいるので、生徒課員による立番を定期的に行うなど、通学路の危険箇所等事前の指導を徹底する。また、交通委員による呼びかけを行う。
教育相談	教育相談の充実	ホームルーム担任、学年主任、養護教諭、スクールライフアドバイザーなどによる校内体制を充実させるとともに、保護者や外部の関係機関と連携し、学校不適応の傾向にある生徒の早期発見・早期対応に努める。 相談体制に対する生徒・保護者の満足度 A：70%以上 B：69～60% C：59～50% D：49～40% E：40%未満	A	ホームルーム担任、学年主任、養護教諭、スクールライフアドバイザーなどの校内関係者及び保護者や外部の関係機関と連携して対応した。スクールライフアドバイザーとの面談の結果好転した事例が増加した。	不登校傾向生徒が増えている現状がある。校内関係者及び保護者や外部の関係機関との更なる連携を図り、学校不適応状態にある生徒の早期発見及び早期対応に努める。スクールソーシャルワーカーを積極的に活用する。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
教育相談	特別支援教育の充実	特別な支援を必要とする生徒について、校内関係者で情報共有を図り、保護者及び外部関係機関と連携しながら、個々の生徒に対するより適切な支援に努める。また、校内研修により、特別支援教育についての教職員の理解と対応力の向上を図る。	A	特別な支援を必要とする生徒について、校内関係者及び保護者や外部の関係機関と情報を共有し、連携・協力して対応した。また、校内研修を通じて、特別支援教育についての理解を深めた。	特別な支援を必要とする生徒について、校内関係者で情報共有を図り、保護者及び外部の関係機関と連携しながら、個々の生徒に対する、より適切な支援に努める。また、校内研修により、特別支援教育についての教職員の理解と対応力の向上を図る。
特別活動	部活動の充実	ハラスメントを許さない雰囲気をつくるとともに、各部で休養日を設定するなど、安全かつ健全な活動に努める。 部活動加入率 A : 95%以上 B : 94~93% C : 92~91% D : 90% E : 90%未満	A	大きな事故や問題もなく、安全かつ健全に活動できた。部活動加入率も95%を超えている。	教職員間での報告、連絡、相談を密にし、生徒の安全かつ健全な活動に努める。
	学校行事の充実	生徒、教職員が協力して取り組み、活力ある学校行事にする。地域を元気付ける藤樹祭にする。 学校行事（藤樹祭、クラスマッチなど）の充実度 A : 80%以上 B : 79~70% C : 69~60% D : 59~50% E : 50%未満	A	学校評価アンケートでは、保護者、生徒ともに楽しく充実しているという評価が90%以上であった。	事後に行なったアンケートによる生徒の意見を参考にし、行事の工夫を図る。
安全教育	防災、安全意識の向上	防災、安全意識の向上を図るとともに、緊急時の対応及び避難方法を全員に周知徹底する。 緊急時対応に対する生徒の理解度 A : 90%以上 B : 89~80% C : 79~75% D : 74~70% E : 70%未満	B	年3回の避難訓練を実施するとともに、学校評価アンケートでは、緊急時にはどのような対応をとるべきか理解している生徒は83%であった。	保護者も含めて「自然災害等発生時の対応について（改訂版）」の周知を図るとともに、訓練を通じてどのように行動することが安全な行動であるかを考えさせる。
	安全点検の徹底	毎月の安全点検を行い、修理・修繕等事故防止のための安全管理を徹底する。	C	毎月の安全点検を行い、安全な教育環境の整備に努めた。目視では体育館の壁落下まで予測ができなかった。	毎月の安全点検の事後措置を徹底する。
健康管理	健康教育の充実	生徒の健康状態を把握し、事後措置を迅速に行う。感染症対策について啓発活動を行い、生徒自身の健康に関する自己管理能力の向上を図る。生徒保健委員会活動をより充実させ、健康教育の啓発に努める。	A	保健調査や健康診断によって生徒の健康状態を把握し、受診が必要な生徒については、個別指導によって事後措置を徹底することができた。毎月の保健だよりや生徒保健委員会の活動を通して、健康についての意識の向上を図った。	個別の保健指導を丁寧に行い、迅速に事後措置が完了できるよう努める。生徒保健委員会の活動をより充実させ、健康教育の啓発に努める。
図書・研修	朝の読書の充実	学校全体で朝の読書に取り組み、豊かな感性と情操を養うとともに、基礎学力を育てる一助とする。	B	年度当初に図書委員が積極的な取組を呼び掛け、全校で取り組む姿勢が見られた。	図書委員長が定期的に呼びかけるなど、更に全校的な取組を促進する。
	図書館利用の活性化	図書館が所蔵している図書の情報を積極的に発信する。学年、ホームルーム、教科と連携を図りながら、図書館の利用を促進し、年間貸出冊数一人当たり5冊以上を目指す。 A : 5冊以上 B : 4.9~4.0冊 C : 3.9~3.0冊 D : 2.9~2.0冊 E : 2.0冊未満	E	貸出冊数は2月までで1.9冊であった。その一方で、個人別では年間最高68冊を借りた生徒もいた。また、教科やホームルーム、総合的な探究の時間で工夫した図書館利用が見られた。	図書館の蔵書の整理や、新着図書などの情報の積極的な発信により、図書館の利用を促進する。
	現職研修の充実	相互授業参観や研究授業の活発化を図り、校内研修を充実させる。校外研修の情報を的確に伝え、積極的な参加を促す。 校内研究授業の年間実施回数 A : 12回以上 B : 11回 C : 10回 D : 9回 E : 9回未満	A	6月に学校訪問研修では、全ての教員が教科及びホームルーム活動を行い、参加した先生方からの評価が高かった。	教員全員が必ず授業参観を行うことを目標とする。また、校外研修への積極的な参加を促すとともに、校内研修として還元することによって授業力の向上を図り、学校全体の活性化につなげる。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
図書・研修	積極的な授業公開	P T A総会、ホームページ等で公開授業の実施を周知し、参観者の増加を図る。	B	保護者や地域の方に対してP T A総会時及び2学期に公開授業を行った。学校訪問研修の関係で1学期の公開授業が実施できなかった。	事前のプリントやホームページなどで保護者などに対して広く周知を行い、参加者の増加を図る。また、授業公開の期間をもう少し長めに設定する。
人権・同和教育	いじめ対策の充実	いじめの防止・いじめの早期発見を心掛け、いじめや差別のない明るい学校づくりを目指す。「学校生活アンケート」の結果を学年団で共有し、面談に生かすなど、実態の把握といじめの防止に努める。	B	「学校生活アンケート」の結果を学年間で共有するとともに、いじめだけでなく、悩みがある生徒には面談を実施するなど、積極的に実態の把握に努めることができた。	学年での取組、部活動、学校行事など、様々な交流の機会を通じて、望ましい仲間づくりに努める。
	人権・同和教育の充実	生徒たちが同和教育をはじめとする様々な人権問題を自分のこととして真剣に考えることのできる人権・同和教育ホームルーム活動を目指し、教職員研修を充実させる。 人権だよりの作成や公開授業・人権集会等への案内、学校ホームページの活用を通して、保護者・地域との連携を強化する。 人権・同和教育に対する理解度（3年） A：100～95% B：94～90% C：89～85% D：84～80% E：80%未満	A	3年生のアンケートを集計した結果、同和教育をはじめとする様々な人権問題に対して、深い理解が見られた。人権・同和教育ホームルーム活動の実施に当たって、事前に学年で学習会を行うとともに、研究授業の実施するなど、教職員研修の充実を図ることができた。	同和教育をはじめとする様々な人権問題の解決に向けて、小さなことでも普段から実践できることを考えさせることを通じて、知識を深めるだけではなく、実践につながる学びを行っていきたい。
商業教育	資格取得の充実	3年間で全商検定試験1級3種目以上の取得率80%以上を目指す。 A：80%以上 B：79～70% C：69～60% D：59～50% E：50%未満	A	今年度の取得率は97.2%であった。	検定対策が功を奏しているため、この良い流れを継承し、来年度も80%以上の取得率を目指したい。
教育環境	教育環境の充実	美化委員会を中心に家庭クラブ等と連携し、清掃活動を充実させて、校内の美化に努める。	B	毎日の清掃活動、毎月の大掃除、美化委員による美化活動などを通じて、環境整備ができた。	毎日の清掃活動を充実させ、環境整備に努める。
組織運営	校内組織の充実	教職員間の意思疎通を深め、連携・協力体制を確立する。	B	ストレスチェックでは県立学校全体と比較しても職場での対人関係が良好であった。	特定の教職員に負担がかからないように、校務分掌や課内での役割分担に注意を払う。
業務改善	業務時間の適正化	各種会議の運営を工夫するとともに、校務支援システムの活用を推進し、業務の効率化と時間の有効活用を図る。 各種会議の適切な運営に対する満足度 A：90%以上 B：89～80% C：79～70% D：69～60% E：60%未満	A	学校評価アンケートでは、職員会議や運営委員会の運営が適切に行われていると感じている教職員が100%であった。メッセージ機能を活用した連絡、アンケート機能を活用した意見交換、Teamsを活用したアンケート集計など、業務の効率化と時間の有効活用を行った。	各種会議の開催について、開始時間を早めるなど勤務時間を越えないように工夫する。また、年次有給休暇取得の促進やテレワークの活用を呼びかける。
	職場環境の整備	「月例アンケート」を実施し、職員の健康、衛生、安全面での課題について実態を把握し、改善が必要な場合は速やかに対応する。 職場環境の課題改善に対する満足度 A：90%以上 B：89～80% C：79～70% D：69～60% E：60%未満	B	衛生委員会において、職場環境改善についての「月例アンケート」「健康と職場環境に関するアンケート」を実施して現状を把握し、改善に努めた。学校評価アンケートでは、教職員が心身ともに健康で働きやすいように、職員室・休養室等が整備されていると感じている教職員が82%であった。	「健康と職場環境に関するアンケート」など、教職員の意見を広く吸い上げる機会を設けることによって、実現可能なものについては改善を図る。

(A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった)